



アクテノン

NO. 94

名古屋市演劇練習館機関紙

エッセイ

■「昔の日々」



星の女子さん⑩
「トゥルムホッホ」
作・演出 渡山博崇 '16年5月12日～15日
ナビロフトにて



星の女子さん⑪
「音子はつらいよ タイガー・カーの数奇な人生」
作・演出 渡山博崇 '17年1月13日～15日
七ツ寺共同スタジオにて

渡山 博崇 (劇作家・演出家・星の女子さん主宰)

おもしろいことがしたかった。小学生の頃は小説家に憧れ、中学生の頃は絵描きに憧れ、高校生の頃は声優に憧れた。そしてどうしようもなく内向的なオタクだった。内向さを順調に育み、引きこもって社会からドロップアウトをした。普通に生きられない、と観念した私は、せめておもしろいことをしたかったが、おもしろいことってなんだろうか。よくわからなかった。

小劇場の世界に入ったのは20歳の頃だった。「月面コレクション」という今は無き劇団に入団した。ここが私の原点だ。役者志望であったが、小道具を作っていた。演出家の要望で「バナナを剥いたら、携帯電話が出てくるんだよ」と言われ、作った。「見た目は完全に四角い箱なんだけど、湯呑みが収納されて、押すとお茶が出るんだ」と言われ、作った。無茶なことばかり言われた気もするが、やればできた。

次に「劇団イリスパシブルティ」を仲間と立ち上げた。この頃の私は父親が経営する工場で働いて、社長の息子という特権を利用して、必ず定時に仕事をあがり、毎日のように劇団に時間を費やした。初めての劇作もこの時のもので、「台本を書くから」という理由で仕事を2週間休んだりした。

24歳の時には、上京もしてみた。細々とアルバイトをし、細々とライブハウスでコントを発表し、あまりにも細々としていたので、大きな新宿のビルや深すぎる大江戸線の地下鉄に気圧されて、1年ほどして逃げ出した。

将来のビジョンなど、ひとつもなかった。ただ盲目的に「やればできる」と信じて、計画性のカケラも

なく演劇を続け、そのくせ気が乗らないと何時間でも漫画喫茶に滞在し、ひと月の漫画喫茶代が10万円を越すような時期もあった。社会性も経済観念も演劇に対する情熱ですら、薄っぺらく、なにひとつ確信がなかったが、それでも「なんとかなるだろう」とぼんやり思っていた。

28歳の時、父親の工場が倒産した。どうにもならないこともある。

30歳を目前にして、私は考えた。このままでは駄目だ。遅い、あまりにも遅い気付きだった。

その頃、所属している劇作家協会東海支部の「劇王」という短編演劇のコンテストや、演出家協会の「演劇大学」という企画に参加したりしていて、演劇の偉い人たちから色んな話を聞いた。なんともなっていない自分をなんとかしなきゃいけないと思っていたので、必死になって人の話を聞いた。しかし誰ひとりとして、同じことを言う人はいなかった。考えてみたら、当たり前だ。経験は人それぞれ違う。どんな目に遭って、どんな考え方を育ててきたのか、みんな違って当たり前なんだ。

私が今、おもしろいと思っていることはなんだろうか。

ひとりでそれに向き合うために、小説を書いた。それは第4回ショートストーリーなごやで大賞を受賞し、大いに褒められた。しかし、戯曲ではいまだに、大いに褒められたことはない。褒められることは目的ではないが、ひとつの目標ではある。

今は「星の女子さん」という劇団を主宰して、おもしろいとはなにか、を探している。結局、今も昔も、それだけは変わっていない。

トピックス

■ 写真展「創世界に生きる人」を終えて



服部義安写真展「創世界に生きる人」
'17年2月1日～28日
名古屋市演劇練習館(アクテノン)
1F資料コーナーにて

今年2月に、アクテノンで「創世界に生きる人」と題して写真展を開かせて頂きました。3年近くの間撮りためた舞台写真の中から、100名を超える方のポートレート、6つの舞台を中心に構成しました。こうした写真を撮るきっかけは、モダンダンスをやっている知り合いの娘さんの撮影でした。撮っていくうちに、本番の写真だけでなく、舞台を作り上げていく過程、その中での舞台人の姿を撮りたいと思うようになりました。こうした思いは、長年舞台に関わってきた連れ合いの姿から、一つの舞台を作り上げていくには、大変な努力を費やさなければならぬことを身近に感じていたから出てきたのだと思います。アクテノンからの依頼を気楽に引き受けたのは良いのですが、実際に個展を開くとすると、初めてで分からないことだらけでした。作品選び、展示方法、チラシ作り等々。否応無く、周りの方々の力をお借りすることになりました。この点でも、とても良い経験をさせて頂きました。

服部 義安 (アマチュア写真家)

観て頂いた方からは、「静止した写真には、動画では見落としてしまう表情や心の動きを感じることができ、舞台写真の力を感じた。」という感想も頂き、写真展をやって本当に良かったと思います。自分の思いや興味から撮ってきた写真が、結果的に舞台での創造活動に携わっている方々の応援になっていたら、こんなに嬉しいことはありません。

今回の写真展は、これから撮っていく写真の方向性を決める機会にもなりました。写真を撮始めると、写真を上手に撮れるようになりたい、綺麗な写真を撮りたいと思うものです。そのうちに、コンテストに出して、自分の写真のレベルを試したくなります。しかし、今回の経験を通して、強い1枚の単写真を追い求めるのではなく、組写真で自分の中のテーマ性を表現する写真を撮っていきたく思うようになりました。これからも、舞台写真は、自分の大切なテーマの一つとして撮り続けていきたいと思っています。

アクテノン・シャワー

■ キャンドル演劇奨励基金の助成作品募集

キャンドル演劇奨励基金(メ〜テレ事業が平成5年に設定)が、平成29年度の助成作品を募集します。愛知県内に活動拠点を置く演劇団体の舞台公演が対象です。3作品を採用して、各30万円を助成します。募集の要項は下記の通りです。

1. 対象作品：愛知県内に活動拠点を置く演劇団体の県内舞台公演 3作品
2. 公演期間：平成29年10月1日～平成30年9月30日
3. 助成金額：1作品 30万円
4. 募集期間：平成29年6月30日(金)まで
5. 応募方法：所定の申込書を下記へ送付
6. 申込書の請求および送付先：〒105-8574 東京都港区芝3-33-1
三井住友信託銀行 個人資産受託業務部 公益信託グループ
キャンドル基金担当(TEL 03-5232-8910) 申込書ダウンロードサイトアドレスは
<http://www.smtb.jp/personal/entrustment/management/public/example/list.html>

■ 定期利用の受付について

平成29年度(平成30年4月～平成31年3月分)の定期利用を次のとおり受付いたします。

- * 受付期間／平成29年7月1日～15日(月曜日は除く)
- * 対象／演劇の練習
- * 貸出施設／大練習室1・2、および小練習室1(いずれも4階)
- * 利用方法／利用年度を通じて、月2日以上15日以内(ただし、一週間につき3日以内、同一曜日、同一使用時間区分)、1日につき2区分以内。
- * 利用料金／平成29年9月末日までにお支払いいただきます。

アクテノン利用団体紹介

- ① 発足年 ② 団員数 ③ 主な上演作品／会場(上演年) ④ 連絡先

演劇 シエター・イリデセンス(彩)



多文化・多言語劇団Theatre Iridescenceは起用するアーティストを通じ、異文化理解や多様性承認の素晴らしさを発信することを目標に活動しております。次作品は「Transit」という日本に住む外国人あるあるラブコメミュージカルです。国内外で活躍する実力俳優陣がお届けするバイリンガル(字幕付き!)和洋ミックスのロック・ポップミュージカル「トランジット」を是非お見逃しなく!

公演情報-7月1日:13時・18時, 7月2日:13時・17時, 西文化小劇場, 前売券:2,500円, 当日券:3,500円(チケットぴあから購入可, Pコード:457-913)

アクテノンに一言 いつも大変お世話になっております。スタッフは皆優しく、新しい劇団に対してのサポートが素晴らしいです。今後も宜しくお願いします。

- ① 2016年 ② 25名
- ③ 『SNOW ANGEL』/セツ寺共同スタジオ('16年)
- ④ 川上 綾
- HP: <https://www.theatreiridescence.com>
- E-mail: nagoyatheatre@gmail.com

演劇 廃墟文藝部



廃墟文藝部は2012年に設立された、憂鬱系エンタメ劇団です。劇団のコンセプトは、名前のとおり「小説のような芝居」をすることで、今年の秋には、そのコンセプトに真正面から取り組む長編作品「アナウメ」を予定しています。(10月13日～15日 千種文化小劇場)

上演した作品の大半は、YouTubeにて無料公開をしています。この記事を読んで、興味をもっていただけましたら、ぜひご覧ください。(公式HPにてまとめてあります。)

アクテノンに一言 アクテノンの外觀がとても好きです。稽古に向かうために、いつもの曲がり角を左折すると目の前に現れる、その非日本的な姿を見ていると、今から尋常ではない作品を作るのだと勇気が湧いてきます。

- ① 2012年 ② 10名
- ③ 『小説家の檻』/千種文化小劇場('16年) 『慾望の華』/千種文化小劇場('15年) 『MOON』/G/pit('14年)
- ④ 後藤 章大
- HP: <https://haikyobungeibu.jimdo.com>
- E-mail: haikyobungeibu@yahoo.co.jp

公演のご案内

★アクテノンの利用団体の公演をご案内します。※詳細は劇団へお尋ね下さい。① 会場 ② 日時 ③ 料金 ④ 問合せ先

双身機関 第19回公演 『白-shira-』	① 双身機関・道徳ハウス ② 6月30日(金) 18:00、7月1日(土) 18:00、2日(日) 18:00 ③ 3,000円(当日3,500円) 学生1,500円(当日2,000円) ④ ☎090-1625-6425 info@soushinkikan.org 昨年3月に劇団創立20周年として上演された作品の再演です。
右脳中島オーボラの本妻 『踊る!惑星歌謡ショー』	① セツ寺共同スタジオ ② 7月8日(土) 11:00 15:00 20:00、9日(日) 13:00 17:00 ③ 1,500円(当日1,800円) ④ oobora6@yahoo.co.jp 名古屋演劇界の鼻つまみ者として広く認知して頂ける様、精進して参ります。
俳優館 夏休みファミリー劇場2017ミュージカル 『夏の夜の夢』	① 名古屋芸術創造センター ② 8月10日(木) 19:00、11日(金・祝) 11:00 15:00、12日(土) 14:00 ③ 3,500円(当日3,800円) 高校生以下3,000円(当日3,300円) ファミリー券(一般1+高校生以下1) 6,000円 ④ ☎052-203-8721(俳優館) *ファミリー券は俳優館のみ扱い とあるオールナイト営業のテーマパーク<妖精の森ドリームランド>を舞台にくり広げられるシェイクスピアの「夏の夜の夢」をお楽しみください。
即興パフォーマンスまねきねこ☆ 即興演劇のチームバトル 『シアタースポーツ』	① K・Dハボン ② 8月11日(金・祝) 13:00 19:00 ③ 2,000円(1ドリンク込み) ④ ☎052-770-1260 スポーツ観戦のようにエキサイトしてご覧ください!



編集発行/平成29年5月25日(年4回)

名古屋文化振興事業団 [演劇練習館 [アクテノン]]

〒453-0841 名古屋市中村区稲葉地町1-47

TEL 052-413-6631 FAX 052-413-6632

※この印刷物は、古紙パルプを含む再生紙を使用しています。

